

更生保護女性会会長賞

堺市立 東陶器小学校 六年

松 本 梨 華

みんなで助ける

私には分からない。なぜ私と同じ人間が、犯罪や非行を起こすのか。どうしてそんなことができるのだろうか。人に迷惑をかけることをどうしてするのだろうか。私はニュースでいろんな犯罪や非行についての番組を見るといつも疑問がわいてくる。私にはこのような事がありえない。困ったこと、不安なこと心配なこと、全てを相談できる親や学校の先生や友達がいるからだ。こういう犯罪を犯す人達には、不安なことなどを相談できる人がいないのだろうか。もし、相談できる人がいてたらきっと犯罪や非行にはすることはしないとと思うのだが。

一九九七年に、学校の門の前に遺体が置かれる、いわゆる神戸連続児童殺傷事件を代表するような殺人事件、万引きやひったくりなどのせつ盗、夜間の暴走行為、麻薬などの薬物使用の多種多様な事件が起こっている。これらの事件には、私たちと同じ年代の少年少女も関わっている。これらの犯罪を起こしている少年少女には、友達がいないのかと思う。いや、むしろ楽しく遊んだり、一緒にさわいだりする仲間が多いのかもしれない。ただ、本音で

話し合える相談相手はいないのではないだろうか。私はそう考えてしまう。なぜなら、もしそういう相手がいたら、犯罪を行う前に止めてくれるし、もしくは、もっと楽しいことを教えてくれるはずだからだ。

人はコミュニケーションをとらないと心の中で考えていることを相手に伝えることができない生き物だと思う。このような犯罪を犯してしまった人たちでも、心から相談できる相手や親しくコミュニケーションをとれる人がいたら、状況は変わったのではないかと思う。

昭和の最後には、少年犯罪は、年間百二十万件だった。その後、平成十四年のピークには、二百八十万件にまで増加している。その頃から、日本では、地域のボランティアや、有志による活動が活発化した。そのことにより、平成三十年には、年間八十万件まで、少年犯罪は減少したようだ。

私には、ボランティアや有志の活動が、少年犯罪の減少に関係があるように見える。それらの活動において、いろんな人とな

といけないと思う。

がったり、コミュニケーションがとれたりしたからではないだろうか。また、それらの活動を行うことにより、まじめな心や、つながる心などの心の成長につながったのではないのだろうか。やっぱりコミュニケーションをとる場が大切だと思う。

今の日本での家族の構成は、「核家族」が多くなっている。私たち子どもにとって、コミュニケーションを取れる人が少なくなってきた。情報化もさらに進み、私が大切だと思うコミュニケーションがとれる場がどんどん減ってくる。こういう時だからこそ、一人ひとりが、お互いの気持ちを考えたり、人が関わる場をたくさんつくらなければならないと思う。大人も子どもも一人ひとりが自覚して、進めていかなければ、絶対解決できない問題だと思う。

私ができることは、積極的に友達や大人に声をかけてコミュニケーションをとったり、地域の行事など、多くの人と関わる場に行ったりすることだ。私一人では、変えることができない問題かもしれないが、今の現状を友達や大人に伝えることによって、少しずつ変わっていくかもしれない。だから、行動し続けることを目標とする。

子どもも大人も真剣に関わり合えば、犯罪や非行は減るはずだ。コミュニケーションを取り合い、子どもと大人が一体となって、よい社会をつくることを、私もふくめ、みんなで考えていかない

